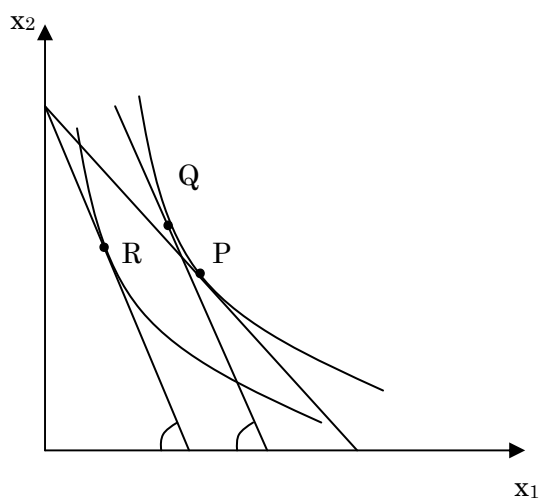


価格効果（続き）

価格効果を代替効果と所得効果の2つに分けてみる



- ① 第1財の価格が上昇する
- ② 第1財と第2財の相対価格が変化する
- ③ 予算線の傾きが急になる
- ④ もし始点のP点と同じ効果が達成されるように所得が調整できるなら最適点はPからQに移動する（代替効果）
- ⑤ $P \rightarrow Q$ により第1財の消費量は減少し第2財の消費量は増加する
- ⑥ 今、現実には第1財価格が上昇して所得は実質的に減少しているのでQ点は選択できず、第1財と第2財の相対価格は同じまま予算線が左下にシフトする（所得効果）つまり、 $P \rightarrow R$ の変化（価格効果）は $P \rightarrow Q$ （代替効果）と $Q \rightarrow R$ の変化（所得効果）の合成として理解できる

価格効果＝代替効果＋所得効果

↑
↑
 財の相対価格の変化 実質所得の変化

この式のことをスルツキー方程式と呼ぶ。

問題

今、第1財の価格のみが低下したとする。

FはEの右上に位置する。

この時、第2財は正常財か劣等財か。

Answer 正常財

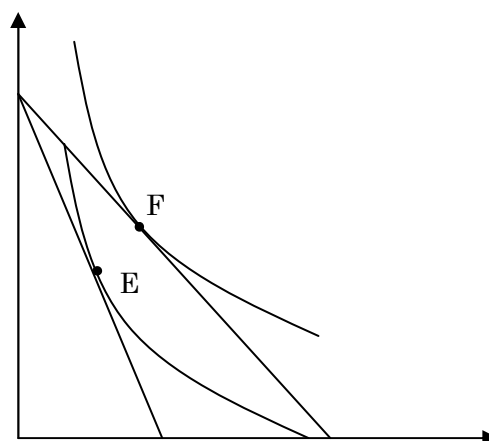
$P_1 \downarrow$ 、 P_2 一定より

代替効果 $x_1 \uparrow$ 、 $x_2 \downarrow$ となる

今、価格効果が $x_1 \uparrow$ 、 $x_2 \uparrow$ なのだから

x_2 の所得効果は \uparrow でなければならない

所得効果を \uparrow にするのは正常財



これら価格効果の程度は「需要の価格弾力性」によって求められる（消費）

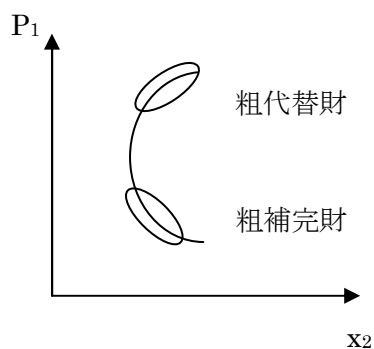
$$\varepsilon_{ii} = - \frac{\left(\frac{\Delta x_i}{x_i} \right)}{\left(\frac{\Delta P_i}{P_i} \right)} = - \left(\frac{\partial x_i}{\partial P_i} \right) \cdot \left(\frac{x_i}{P_i} \right)$$

第 i 財の価格が 1 % 上昇（下落）したときに第 i 財の消費量が何 % 変化するかを示す。

また他の財（j 財）の価格の変化が i 財に与える影響は「需要の交差弾力性」によって求められる

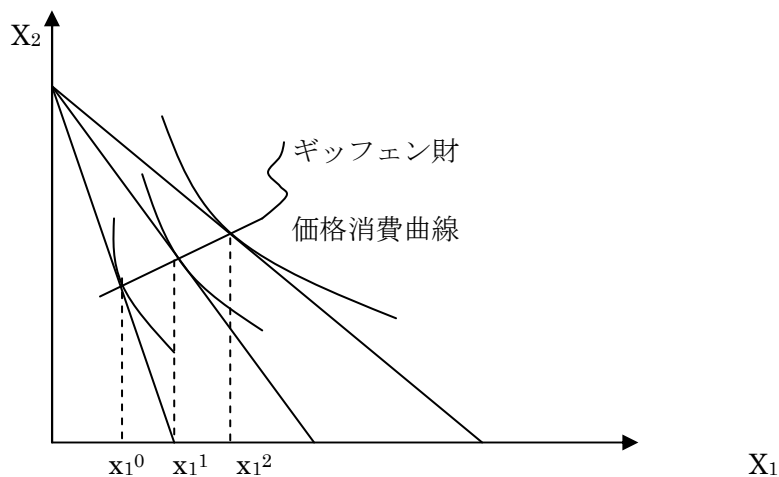
$$\varepsilon_{ij} = - \frac{\left(\frac{\Delta x_i}{x_i} \right)}{\left(\frac{\Delta P_j}{P_j} \right)} = - \left(\frac{\partial x_i}{\partial P_j} \right) \cdot \left(\frac{x_i}{P_j} \right)$$

もしこの指標が正なら j 財の価格上昇は i 財の消費を増加させるので 2 つの財は（粗）代替財となる。もしこの指標が負なら j 財の価格上昇は i 財の消費を低下させるので 2 つの財は（粗）補完財となる。

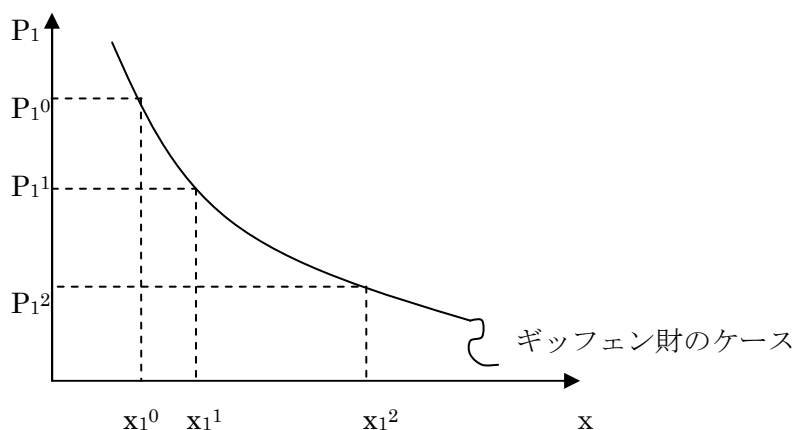


もう一度前の図に戻る

今、 M と P_2 を一定として P_1 が変化したとき最適消費量の点が移動していく。この価格の変化にともなう消費量の変化をかいたものを「価格消費曲線」と呼ぶ。

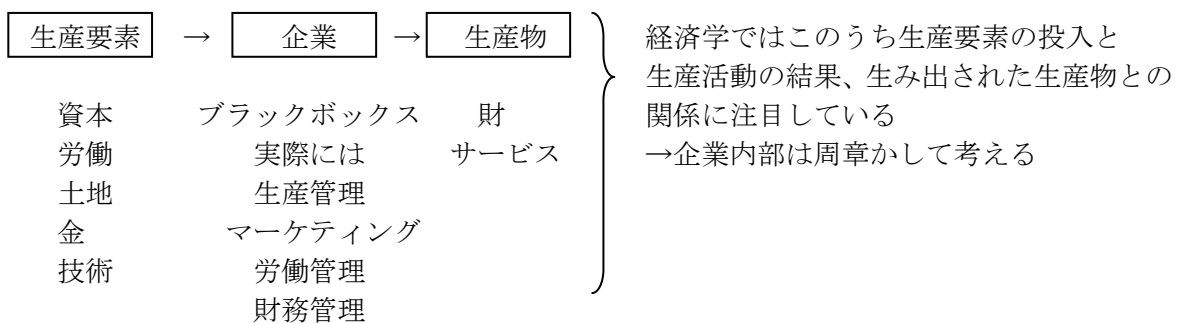


これを第 1 財についてかきなおすと下図のようにかける。これを「第 1 財についての個別需要曲線」とよぶ。



企業の理論

経済学での企業とは何か



企業の目的は何か

利潤の最大化を目的とする。そのために適切な生産量 q を決定する。この時の意思決定は次のように表わされる

$$\max \pi(q) = pq - c(q)$$

p:生産される財の価格	}	収入	}	この差分を最大化する
q:生産量				
c(q):費用関数				